

●ミツバチとメダカの観察会 募集定員をオーバーする参加者が来所予定 10 家族 28 人(小人 15 人)

世間一般的にハチは槍を持って人間に攻撃をしてくるもの、恐い生き物との印象があります。しかし、ハチの果たしている役割を正しく理解すると、それほど恐ろしいものではない事が分かりいただけます。日本のメダカはキタノメダカとミナミメダカの二種であったとされていますが、交雑や品種改良で自然界には居ないものが出回りだしています。今回こうした点を正しくご理解をいただくために取り組みます。5月7日現在の参加申込数は予定数に達しました。スタッフを含むと30人以上になり、会場一杯になります。15日には草刈りなどを行うなどの整備を予定しています。今回は初回でもありますので慣れない不都合も発生すことも考えられますが、皆様のご協力で成功するようにお願いいたします。7日に応募を締め切りましたところ10家族28人の参加申し込みがありました。

●会誌 56 号すべてカラー印刷で完成 印刷製本作業を 5 人で大奮闘

今回の56号は総ページ数が168を超える大作になりました。講演会報告に湯本貴和先生から貴重な原稿を届けていただきました。そして、同志社大学在学中から里山の会に会員として活躍され京都大学大学院を卒業された小林さんが中国雲南省訪問の原稿を提供していただき、大変充実した会誌に出来上がりました。それに今回は太田理事が編集・印刷・発行事務に関わっていただきました。大きな前進が始まり、新しい力が誕生したと思われます。これまでは送付しても宛先が違っていたりして出戻りになる出来事が多数発生してきました。昨年の夏に名簿整理を会計事務担当の小川さんに行っていたとき、これまでの播川さんに太田さん、森島さん、金田さん、有田さん、森島副理事長など理事の皆さんが力を合わせて印刷作業に取り掛かり、大仕事を推進していただきました。



今回は一部の原稿寄稿のお話がありましたので、印刷ぎりぎりまでお待ちすることになって、発送が5月になるという結果になりました。また物価高の連続と運送業務の変更で送付料金が予想を超える高額になりました。郵送事務が大きく変更になって対応に苦労をいたしました。

会員の皆さん方からは、こうした世間の動きを機敏に感じ取っていただき会費納入を進めていただいています。有難いことです。このご協力に依って年を取ってきましたがみんなで頑張り続けていこうと思います。

この会誌が、活動に参加されて頂けない方にも、できるだけ内容がお伝えできるものになっていればと努力を重ねていますが、これからもさらに改善改良を果たさなければなりません。ぜひとも会員各位から要望意見を頂戴し、新しく前進できるよう提案をいただければ有難いと思います。

本文分 : 168 ページ:用紙 1 円・印刷費:10 円=200 冊 336,000 円 **送料** 170 円=100 冊 17,000 円 の経費が掛かりました。

会誌発行には総合的な組織的な取り組みが求められます。製本作業だけでなく ①原稿集めと編修、目次づくり ②送付先の名簿管理(入会退会者の把握) ③会費納入管理(会計との連携) ④事業の計画性と結果記録 等です。

●京都府交響プロジェクト完了報告書 受領される

2023 年度の交響プロジェクトの報告書を提出した結果、第 1 段階の審査を通過したとの連絡をいただきました。これから第 2 段階の審査が行われるところになっているとのことです。里山の会の第一次の報告書では 853,000 円でしたが、1 次審査では 811,000 円が交付金対応になると判断されました。規格に合う形で報告しましたが、要項規定に外れるものが明確になって減額されました。里山の会では会員の減少が右肩





峡谷にそびえる梅里雪山と氷河。写真中央に村が見える。手前の谷はメコン川=2001年、小林尚礼さん撮影



村の畑で農作業をする女性たち=2000年、小林尚礼さん撮影



梅里雪山での遭難者の遺品を手にしながら当時を思い起こす人々=東京都新宿区で2024年3月16日午後3時53分、田中泰義撮影

英作家ジェームズ・ヒルトンの小説「失われた地平線」に、シャングリラという桃源郷が登場する。氷河を抱く雪山がそびえ、美しい渓谷に寺院が建ち、住民は平和に過ごす。雰囲気の似た場所が中国・雲南省の梅里雪山（6740メートル）の一带に広がる▲モンスーンがもたらす雨で山菜やキノコが豊富な森が発達した。人々はトウモロコシを栽培し、家畜のふん尿は堆肥（たいひ）に活用する。巡礼の地でもある静穏な地域だが1991年1月、騒然となった▲初登頂を目指していた京都大の学生ら17人が消息を絶った。今なお日本の海外登山史上、最悪の遭難だ。全員が雪崩に遭ったとみられ、氷河に埋まった遺体がふもとの村にたどり着くまでに50年以上要すると推測された▲7年後、放牧中の村民が氷河上に遺体を見つけた。それを機に、登山隊に親友がいた横浜市の写真家、小林尚礼（なおゆき）さん（55）は通い始めた。多い年には1年のほぼ半分を過ごした▲そのかいあって16人の遺体や遺品を回収したが、四半世紀で風景は様変わりする。村の上流まで来ていた氷河は1キロ以上も後退し、川底もあらわになった。「最後の1人はメコン川に通じる下流に流れたか」と天を仰ぎ、捜索終了を決意した▲桃源郷とうたわれた山麓（さんろく）にも地球温暖化の影響が忍び寄る。生活も現代化が進み、スマホが利用可能となった。それでも自然の恵みがなければ暮らしが成り立たないことを、人々は肌で感じている。きょうは「みどりの日」。自然への畏敬（いけい）の念を抱き続けたい。

下がり、財政運営が一年一年厳しくなっている時こうした交付金が大変大きな役割を果たしています。講師謝金や事務経費などへの必要経費の交付は非常にありがたいものです。特にイベントなどでの保険料補助も安心して事業に取り組めるので有効です。

●毎日新聞 5月4日の 余録の紹介

5月4日に、里山の会の発足当時、本会の会計の相談にいろいろ大きな力を貸していただいた伊藤宏範氏が来所され、左の記事を紹介していただきました。伊藤氏も大学を卒業して就職をした時にこの活動に参加され、大変苦勞されたそうです。伊藤氏は、昨年9月に催した第26回里山講演会で「生き物いろいろ」と題して講演をいただいた生物多様性センター長の湯本貴和氏と京都大学の同窓生で、共に動物学を学んだ間柄だとおっしゃっていました。

●5月23日(木)13時から 国交省淀川河川事務所の木津川出張所の西田所長さんとの話し合いを計画しています。

これまで毎年木津川を身近にしていくなためにいろいろ話し合ってきました。里山の会が木津川堤防に生育している絶滅危惧種に指定されている植物の保存維持調査のための作業や、子どもたちが安心して川で遊べるための施策、竹蛇籠や中聖牛の製作設置への協力を要望してきました。この20年間で一貫して要望してきたのが、散歩されるご婦人や子どもたちにやさしい川づくりのための必須の施設給水施設やトイレの設置でした。今年も例年同じ要請をしようと考えています。皆様からこのような施策や取組がされるといいなあと思いつかれたことがありましたら一言でもご連絡をお願いいたします。✉ fddb257@yahoo.co.jp. または FAX. 0774-64-4183 でお知らせください。お待ちしております。

●先の第30回総会で今年も10月始めに魚釣り大会を計画しています。

夏には昆虫観察会なども実施します。それぞれの得手を生かしてサークル活動を作る方向に決定しました。関心のある課題での集り(サークル)を目指します。今考えられるのは魚サークル、昆虫サークル、農園サークルです。メダカサークルやミツバチサークルも考えていきましょう。少し前には世界遺産を訪ねる会として、屋久島や白神、尾瀬、また愛知用水、豊岡のコウノトリセンターなどを訪ねました。遠くでなくともみんなの見聞を広げる取組案もあれば連絡ください。交通費を含み4,000円位のプランが手頃ではないでしょうか。